

す い た み な み し ょ う が っ こ う

令和7年
(2025年)
全国学テ号

吹田南小学校だより

学校教育目標 「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

(1) 国語

■ 概要

平均正答率については全国値を上回りました。また、単純に比較はできませんが、正答率は、昨年度を上回りました。

■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討する」「話し手の考えと比較しながら、自分の意見をまとめる」等の問題です。ここ数年、学校教育目標を「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」として、「学び合い」による授業方法に取り組んできた成果が表れていると考えます。

【書くこと】

この事項では全国値とほぼ同じでした。この領域の問題は、「目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」等の問題です。目的や意図に応じて、資料を用いて、自分の考えが伝わるように書き表すのは難しい作業です。令和4年度から「書く」ことに取り組んできた成果が表れていると考えます。

【読むこと】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する」「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける」等の問題です。今後も読む目的を明確にし、必要な情報を見つけたり要約したりする活動が必要で



【言葉の特徴や使い方に関する事項】

この事項では全国値を上回りました。この事項の問題は、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使える」等の問題です。

【情報の扱い方に関する事項】

この事項では全国値を上回りました。この事項の問題は、「情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使える」等の問題です。

【我が国の言語文化に関する事項】

この事項では全国値を上回りました。この事項の問題は、「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く」等の問題です。

■ 国語科における分析結果と課題について

あらゆるツールを効果的に活用する力をつけることが「主体的・対話的な学び」を実現することに繋がります。そこで、「資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」「目的や意図に応じて、話題や材料を分類したり関連付けたりして伝えたいことを明確にする」等を、伸ばしていきたいです。そのためには、国語の学習だけでなく、日常的に、他の教科や本や新聞等を活用して、読み手や書き手の考えについて語り合うことや書くことが大切だと考えます。この活動は、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

(2) 算数

■ 概要

平均正答率については全国値を上回りました。また、単純に比較はできませんが、正答率は、昨年度を上回りました。

■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

【数と計算】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する」「分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて、記述する」等の問題です。よく理解できていると思われます。

【図形】

この領域では全国値をやや上回りました。この領域の問題は、「平行四辺形の性質を基にコンパスを用いて作図する」「基本図形に分割して図形の面積を求める方法を式や言葉を用いて記述する」等の問題です。概ね理解できていると思われます。

【測定】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「伴って変わる2つの数量について、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量を求める方法を式や言葉を用いて記述する」等の問題です。よく理解できていると思われます。

【変化と関係】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「10%増量の意味を理解し増量前後で何倍になっているかを表す」等の問題です。よく理解できていると思われます。

【データの活用】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「目的に応じて適切なグラフを選択し、出荷量の増減を判断し、その理由を式や言葉を用いて記述する」等の問題です。よく理解できていると思われます。



■ 算数科における分析結果と課題について

「主体的・対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「**公式を覚えるだけではなく、求め方を式や言葉を用いて記述する**」「**求められている解答の仕方を読み解く**」、などを、今後伸ばしていきたいです。そのためには、求め方を文に書いたり、求められる条件を見つけたりすることが大切です。低学年の頃から日常的に「なぜそう考えたの?」「どうやって解いたの?」等、子どもに説明させる問いかけを意識的に使うことは、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

(3) 理科

■ 概要

平均正答率については**全国値を上回りました**。理科は3年ぶりの実施のため、経年比較は行いません。

■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

【エネルギー】

この領域では**全国値とほぼ同じでした**。この領域の問題は、「電気の回路につくり方について、実験の方法を発想し、表現する」「乾電池の直列つなぎについて、理解する」等の問題です。概ね理解できていると思われれます。

【粒子】

この領域では**全国値を上回りました**。この領域の問題は、「水の温まり方について、観察や実験の方法が適切であったかを表現する」「水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想する」等の問題です。よく理解できていると思われれます。

【生命】

この領域では**全国値を上回りました**。この領域の問題は、「発芽するために必要な条件について、解決の方法を発想し、表現する」「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出す」等の問題です。よく理解できていると思われれます。

【地球】

この領域では**全国値を上回りました**。この領域の問題は、「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現する」「氷がとけてできた水が海に流れる根拠について知識を概念的に理解する」等の問題です。よく理解できていると思われれます。

■ 理科における分析結果と課題について

理科においても、「主体的・対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「**現象や知識を覚えるだけではなく、実験の方法を発想し、表現する**」「**観察や実験の方法が適切であったかを表現する**」、などを、今後伸ばしていきたいです。そのためには、観察や実験の方法や予想・結果を文に書いたり、条件を見つけたりすることが大切です。低学年の生活科等から、実験や観察の場面で「なぜそう考えたの?」「結果から何がわかったの?」等、子どもに説明させる問いかけを意識的に使うことは、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向（児童質問紙調査について）

特徴的なこととして、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか?」、「友達関係に満足していますか?」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自

分で学び方を考え、工夫することができていますか?」という質問では、全国値を上回りました。**子どもたちが、学校教育目標を理解して、良好な友達関係を築いて、充実した小学校生活を送っていることがうかがえます。**

また、「自分にはよいところがあると思いますか?」、「人が困っている時は進んで助けていますか?」、という質問でも、肯定的回答が全国値を上回りました。4月の調査からこれまで、6年生の子どもたちは、修学旅行や平和教育などの経験を積み、委員会活動や学校行事の準備など最高学年として体験したことにより、随分成長してきました。

更に、これからあと3か月間、キャリア教育や、卒業・進学に向けての取組を充実させ、中学校に大きく羽ばたいて欲しいと考えています。

3. 今後の取り組み

本校では、ここ数年、学校教育目標を「**つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い**」として、「**学び合い**」による授業方法に取り組んでいます。ペアやグループ学習の討議、学び合いを軸にして各学年が主体的で対話的な深い学びの実現をめざし、他者とのかわりの中で学力や探究心を育む授業研究を行い、年間6回の研究授業の場で提案し、その後の研究協議で深めることを繰り返し、日常的に授業改善を行っています。

また、令和6年度からは、令和5年度の結果等に基づき、2年計画で「子どもと創る 意欲を引き出す授業 安心できる教室」に取り組んでいます。

現行の学習指導要領は、「何を知っているか」よりも「何ができるようになるか」を重視しています。算数では、計算力や暗記力から実践的な場面で使える技能や知識に学力の柱が移っています。具体的には、「他者にどのように伝えるか」とか「資料をどのように活用するか」というような実践的な場面で知識をどのように活用できるか、というところに重点が置かれています。このことは、国語、理科社会等全ての教科についても同じことが言えます。

4. ご家庭にご協力いただきたいこと

実践的な場面で使えるスキルや知識である「活用する能力」を育てるために、毎年お願いしていることではありますが、ご家庭でもできることをお知らせします。

学校で習った学習や、読んでいる本に対し「その学習（物語）は、どんな内容なの?」と要旨やあらすじを説明することや「学習をして、その物語を読んでどう思った?」と聞くことで、子どもの思考力を高めることにつながります。友達との遊びや、ニュース、ドラマやアニメ等、家庭で会話をすることが有効ですので、どんなことでも題材になります。

次のステップとしては、**日常生活の中で、物事の様子や答えの求め方を自分の言葉で説明する機会を作ってください**ことが、**子どもの思考力を育てます**。まとめたり、順序立てて説明したりすることが少し苦手な子どもには、スモールステップとして、ヒントとなる言葉をいくつか示し、言葉をつなげて文章にするところから始めればよいと思います。

更に、家庭生活において、「家庭学習の時刻を決めて取り組む」「スマホやタブレットの使い方について、家庭で約束したことを守る」等、**規則正しく生活させることや、「新しいことにチャレンジする」「地域の行事に参加する」等、いろいろな人やものに触れ合う機会を持たせることも、学力向上に繋がります。**これまで同様、ご協力よろしくお願いいたします。